

学 委員会を 3 回、学 営委員会を 1 回 催し、以下
の を った。

- (1) 大会の一 の充実を として、各分 会・ 別
委員会 による、オーガナイズドセッションの実
を に った。
- (2) に 化せず、 で 合 な に
する学 セミナーとして、 回「 倫 と
会 任」をテーマに 季 大会と併 してセミナー
を した。
- (3) センターに、 SCC 傷 委員会を し
た。 委員会では、SCC の 傷を 定して、 境・
力 を変えた各 入 件で の SCC 体
作 し、 を中 とする でそれぞれの SCC につ
いて 傷 を するとともに、これまで 化学、
原子力、大学を始めとする での、SCC に係わる
を ・ することを とした。 は、
3 回の委員会を き、PD 制 の に係わる事
の 、これまで の から われてきた
SCC 動の ・ を うとともに、 傷を う場合
の について を った。また並 して、MgCl₂、
ポリチオン、フッ化イオン 境で SCC 体 の作
み、 の 体を作 できた。
- (4) 各 委員会の 動 を し、 化を図るべく
した。
- (5) 学 動 化を に学 委員会と し、
学 (分 会、 別 委員会 の につい
て を った。
- (6) 学 営委員会では、 である学 の
、 、奨励 則及び 参加 の
し を った。

1.2.1 季学 会

5	23	()	24	()
アルカディア ケ				
42 件/ 別		1 件/	向け	2 件
216 名参加				

1.2.2 季 大会

10	26	()	27	()
名古屋 国会 場				
72 件/ 別		1 件	195 名参加	
催 で の のない 18 以下同じ				

13 回アジア・太 壊 会 APCNDT2009 を
パシフィコ で 催(2009 11)するにあたり、同委
員会の代 が、11 にニュージーランド オークラン
ド で 催された 12 回アジア・太 壊 会
APCNDT2006 に参加し、 回の 催のための 報 動お
よび 察を った。 報 動にあたり、パンフレット、ポ
スター、ホームページの作 を った。

の で 回の分 会を 催した。その内、 回は
季 大会において、オーガナイズドセッ
ション「射 ・デジタル の しい 」を主催す
る で 催し、分 会 テーマのオープン化に努めた。
また、学 委員会 で されている将 を 介

し、JSNDI の今 の学 動のあり について した。

1 回	7	21	()	ホトニクス(株)	36 名参加, 6 件	・ 学
2 回	10	26	()	名古屋 国会 場	36 名参加, 6 件	
3 回	19	2	2	()	大 区 プラザ	24 名参加, 4 件

2 回は、 18 季大会においてオーガナイ
ズドセッションとして 催。

今 は、 回の委員会を 催し、主として
の 備についての をおこなった。 ではフィルム
に られている の を、デジタル を含ん
だものに し、より を たせることは 射
壊 の今 の にとって不可 なものであると
えられる。

1 回	7	21	()	ホトニクス(株)	8 名参加
2 回	11	2	()	JSNDI 会 室	8 名参加
3 回	19	2	1	()	JSNDI 会 室
8 名参加					

の で、3 回の分 会 含 シンポジウム を
催した。 事 の 備・努力により、分 会・
シンポジウム共、多くの参加 と を て、充実した
動ができた。 に 2 回分 会では、協会の学
の先 け の一 として、フェーズドアレイの 化
の可 にテーマを った 分 会を、分 会会員
以外の協会会員にも参加を呼びかけて 催した。フェ
ーズドアレイ 器の も併 した、 の分 会に
べ3 倍 の参加 を た。分 会の 化の具体
動 として、協会の学 動の 化につながる、一つ
の を できたと えており、今 さらに分 会
の 化の ・ を したい。

1 回	7	10	()	11	()	児 会	34 名参加, 9 件	・ 学
2 回	11	14	()	ビル	京	159 名参加, 9 件	・	
3 回	19	1	30	()	31	()	きゅりあん 京	139 名参加, 38 件

2 回は、セミオープンにて 催。

3 回は、 14 回 による 壊 価シンポジ
ウムにて 催。

コンポジット圧 子の 価回 レーザー
と容 型センサーによる などおもに
の 受信 についての と を った。また、JI
S Z 2350, 2351, 2352 の ISO との 合化の も した。

1 回	5	18	()	JSNDI 会 室	14 名参加, 3 件	
2 回	8	25	()	JSNDI 会 室	10 名参加, 3 件	
3 回	11	20	()	JSNDI 会 室	13 名参加, 2 件	
4 回	19	1	17	()	JSNDI 会 室	8 名参加, 3 件

「 傷における同一 の判 」について
 に する基 データを取 した。千
 が実 したTOFD に する共同 を き
 き し なデータを 多く した。JIS Z 3060
 へ り むべき をリストアップ 化委員会
 JIS Z 3060 備WGへ 供した。

1回 5 16 () JSNDI 会 室 11名参加, 2件
2回 7 19 () JSNDI 会 室 8名参加, 2件
3回 9 20 () JSNDI 会 室 8名参加, 3件
4回 11 27 () JSNDI 会 室 7名参加, 2件
5回 19 2 15 () JSNDI 会 室 12名参加, 2件

ISO 委員会 TC135/SC3 に対して、制
 定、 及び しの審 を った。また、JIS、NDIS
 の国内 と ISO 国 の 合 の を った。

1回 9 14 () JSNDI 会 室 4名参加, 5件
2回 19 2 14 () JSNDI 会 室 5名参加, 3件

場で利 された としての の声や、 のガ
 イド の 、および 化へ向けた 備を実
 している。

1回 5 25 JSNDI 会 室 7名参加 2件
2回 8 24 () JSNDI 会 室 13名参加, 2件
3回 12 1 JSNDI 会 室 14名参加, 1件
4回 19 1 29 () 大学 サテライトオフィス・ 京 7名参加, 1件

の で 回の分 会と 回のオープンシンポジウ
 ムを 催した。 に、 回のシンポジウムは、 10
 回 傷シンポジウム 人 の 劣化事像にかか
 わる センシングと 価 -として、 保全学会
 との共催によって 催し、多くの と参加 を、
 な と 報交 が われた。今 も、他分 会や
 他学協会との共催を含め、オープン化によって学 動
 を 化していく予定である。

1回 7 4 () きゅりあん 京 35名参加, 7件
2回 11 9 () 10 () 北 力大学 18名参加, 10件 ・ 学
3回 19 1 25 () 26 () 京 城南地域中 企 センター 115名参加, 34件

上 プローブを いた についての ・
 及び の に する を った。
 また、EU に の対 について勉 を始めた。

1回 6 20 () JSNDI 会 室 7名参加, 2件
2回 9 22 JSNDI 会 室 10名参加, 2件
3回 12 8 () JSNDI 会 室 10名参加, 2件

れ に する国内外の の動向 と今 の対
 について した。 および の啓 動の
 ために れ の基 と の参 の 備
 動を に めてきた。

1回 5 10 () JSNDI 会 室 9名参加, 4件
2回 7 25 JSNDI 会 室 9名参加, 8件
3回 9 12 () JSNDI 会 室 10名参加, 4件
4回 11 16 () JSNDI 会 室 9名参加, 4件
5回 19 1 16 () JSNDI 会 室 9名参加, 5件
6回 19 3 12 () JSNDI 会 室 8名参加, 5件

傷 では A が使 されているが、
 A はコイル 、 のような が
 大きい において の さの に するかを
 により をした。

1回 6 22 () JSNDI 会 室 7名参加, 2件
2回 12 11 JSNDI 会 室 7名参加, 4件
3回 19 3 26 () 27 () 北 場 7名参加, 3件 ・実 実

季大会でオーガナイズドセッション バイオメカニ
 クスと 体 を企 し、 動の 化
 を図った。以下に分 会 回 とシンポジウム
 回 の 催の実 、参加人 、 件 をす。

1回 6 16 () 大学 16名参加, 4件 ・ 学
2回 10 13 () 原子力 14名参加, 4件 学
3回 19 1 11 () 12 京 城南地域中 企 センター/大 区 プラザ 68名参加, 36件

* 3回は「 38回 力・ひずみ 定と 価シンポ
 ジウム」として、例 と なり2 として 催した。
 の同シンポジウムと して、参加 は5名 で
 件 は1件だけ増加した。今回も から実 してい
 た学 を対 とした学 セッションを け、
 優 学 を上位 名 参加 は 名 に 与した

力塗 の実 に するマニュアルの作 、及び
塗 の安定した 、 の について 動し
た。また、 委員会は、 しい 委員会であること
から、 に対する について作 を った。

1回 10 30 () 京 安会 7名参加, 3件
2回 12 15 () 学士会 10名参加, 3件

季大会で オーガナイズトセッション バイオメカ
ニクスと 体 を企 すると共に委員会を
催し 会員の増員 動と の 化をはかった。

1回 5 24 () アルカディア ケ 12名参加
2回 10 26 () 名古屋 国会 場 9名参加

1回 10 5 () 6 室 中 企 センター 45名参加, 10件 ・ 学
2回 19 3 8 () 9 (), きゅりあん 京 51名参加 13件 2回は、 6回保守 シンポジウムにて 催。

1回 12 7 () 8 () パシフィコ 468名参加(5名), 69件
2回 19 3 8 () 9 () 北 大学 156名参加(5名), 61件 ・ 器

- * ()内は 別 委員会委員参加人 (内)
- * 1回は共同企 ビジョン の実利 ワークショ
ップ2006 として 催。
- * 2回は共同企 動 像処 実利 化ワークショ
ップ2007 として 催。

1回 7 25 () 27 学 大学 78名参加, 62件
2回 12 22 () JSNDI 会 室 18名参加, 3件
3回 19 2 28 () JSNDI 会 室 28名参加, 4件

- * 1回は 18回国 アコースティック・エミッション
シンポジウムにて 催。

1回 6 15 () JSNDI 会 室 7名参加, 2件
2回 9 8 () JSNDI 会 室 15名参加, 3件
3回 19 2 22 () 23 () 合 94名参加, 23件 ・ 学

- * 3回は 合 協催で 9回
及びその 品の 壊 価シンポジウム-安全・安 全
会を く先 壊 -にて 催。

1回 7 3 () 中 (株) 20名参加, 学
2回 8 1 () 2 大学 台 309名参加, 94件 ・
3回 19 3 12 () 京 大学 京 24名参加, 3件 2回は、 2回シンポジウム「コンクリート へ の 壊 の 」にて 催

1回 5 19 () 合 30名参加, 6件 ・ 学
2回 7 6 () 学 会 43名参加, 7件

- 1回は、 合 との合同にて 催。
- 合 の 学会を 実 した。
- 2回は、 学 会 主催 36回安全 学シンポ
ジウム オーガナイズトセッションと 外 サーモグ
ラフィによる 壊 価 別 委員会との同 催。

1回 7 14 () JSNDI 会 室 16名参加, 3件
2回 11 16 () 三 (株) 14名参加, 3件
3回 19 3 9 () JSNDI 会 室 15名参加, 3件

1回 8 28 () JSNDI 会 室 28名参加, 5件
2回 12 15 () ・ 21名参加, 3件 ・ 学
3回 19 3 19 () 20 学 大学 52名参加, 7件 ・

1回 7 14 () コープ・イン・京 43名参加, 5件
2回 10 25 () 名古屋 大学 33名参加, 4件 ・ 学
3回 19 3 26 () 大 区 プラザ(io) 35名参加, 5件

- (1) 18 5 11 12 に 国 で 催され
た 7回 壊 会 FENDT2006 に協会代
を し、同会 国である 、 国及び台 の
三カ国の学 交 と 報交 に努めた。
- (2) 18 9 25 29 にドイツ ベルリン で
催された 27回 ECNDT に併 された ICNDT 全体会 に
協会副代 の加 光 元会 を し、ICNDT 加 各国
及びEU各国の 係 との 報交 に努めた。
- (3) 18 11 5 10 にニュージーランド オー
クランド で 催された 12回アジア・太
壊 会 APCNDT2006 へ協会代 及び事務 員を
し、 回 2009 に で 催予定の 13回アジ
ア・太 壊 会 APCNDT2009 催に向け
て、 報 動及びAPCNDT 加 各国の 係 との 報交
に努めた。また、APCNDT 代 会 で、 13回アジ
ア・太 壊 会 President に大 一元会
が 定し、併せてAPCNDT の New President に 任し

- た。これに伴い、同 が ICNDT PGP 委員会の APCNDT 代
委員に 任した。
- (4) 13 回アジア・太 壊 会 を 2009 に、
パシフィコ で 催するにあたり、井上 嗣 を委
員 とする実 委員会を した。今 は、この実
委員会に対して側 から を う。
- (5) 国 壊 協会 ASNT と二国 で 催している
シンポジウムの 回 催 JSNDI 主催 に向けて、
前会 が 側のシンポジウムチェアマンに
定した。在、同シンポジウム 委員会の
備を めており、併せて 2010 に 国 ハワイ で
催する予定で、ASNT との な交 を 始した。
- (6) 友好協定を している 外の学協会 と会 交 な
どにより 報交 に努めた。
- 学 会 他、 各学協会 からの依 による共催、
協 、 共同企 及び協力を受 した。
- a) 共催**
1. 学 会 学委員会 50 回 学 合
会 2006.12.13-14
 2. 原子力学会原子力 合 2007.5.30,31
 3. 協会 44 回 ・ 射 会
2007.7.4-6
 4. 37 回安全 学 事学会 学 会
37 回安全 学 2007.7.5-6
 5. 像 報 学 会 報 委員会 会
2007.11. にち 定
- b) 協**
1. 会 8 回力学 -
2006.6.2
 2. 化学 学会 11 回 の 価と
効 2006.6.15
 3. 圧力 協会 HPI 失 しない
の 2006.7.13-14 京 催 2006.9.9-7
 4. 大 催
壊 会 2 回 壊 会
会 の の 動向と の
2006.7.21
 5. 学会 18 学夏季大学「 の
しい とその実 」2006.7.18-19
 6. 学会 No.06-25 別 会 の定 化
について 2006.8.18
 7. 光学会 学会 回光
創出 2006.8.23
 8. 協会 41 回 「子 器 品の
と対 」2006.8.24
 9. 圧力 協会 5 回 HPI 「圧力 器及
および における 体の
」2006.8.29-30
 10. 学会 4 回初 のための 労 会
2006.9.6-7
 11. 学会 3 回 2006.9.11-12
 12. 圧力 協会 HPI 「AE による
の と の 」
2006.9.15
 13. 学 会 学 13 回
問 における ・ 学と医学の 2006.9.22
 14. 可 化 報学会全国 会 2006 2006.9.27-
28
 15. 協会 53 回 と 境 会 2006.9.27-29
 16. 動制 学会 23 回 「 大
会- の たな と 合」2006.10.2-3
 17. 圧力 協会 HPI 4 回「事 から学
ぶ 」- 害事 は何 こり、
できないのか- 2006.10.11-12
 18. 会 作 実
2006.10.16-20
 19. 協会 156 回 「 の
・劣化とその 」2006.10.19
 20. 光学会 学会 Optics Photonics
Japan 2006 光学会 学 会 2006.11.8-
10
 21. 学会 28 回 労 2006.10.19-20
 22. 学会 2006「 可 な と
たな 」2006.11.13-14
 23. 学会 34 回 学会 実
学& 会 「動 場 学と の
動 体 と 合」2006.11.7
 24. 学会 学会 分会 「原
子の 射 傷- 化への対 -」2006.11.10
 25. 学会 26 回 労 2006.11.15
 26. 学会 16 回 学 会-
会を えるものつくりとひとづくり(か
ら)- 2006.11.15-17
 27. 協会 2006.11.16-17
 28. 保全学会 2 回 保全学会 「保全の 化
と しい のあり」2006.11.17
 29. 学会 14 回 ・ 加 会
M&P2006 2006.11.25-26
 30. 制 報学会 49 回 動制 合 会
2006.11.25-26
 31. 学 器団体 合会/ 京 全 学
器 in 京 2006.11.29-12.1
 32. 学会 43 回 に する 会
「子デバイスにおける 力間 の と対」
2006.12.1
 33. 会 2006 「先
の と 」2006.12.5
 34. 学会 22 回 ・ 信
2006.12.5-6
 35. 協会 備 全国大会 (TPM
Conference 2006) 2006.12.6-7
 36. 協会 157 回 - 境
の 前 -2007.1.18
 37. 学会 35 回 「 の
動向と保守 」2007.1.23-24
 38. 協会 158 回 -
の と問 -2007.1.25
 39. 大 協会 16 回 射 利 合
2007.1.29
 40. 学会 13 回「 における 合・実
」 (Mate 2007) 2007.2.1-2
 41. 圧力 協会 7 回 HPI 「
基 と安全」2007.2.8-9
 42. 圧力 協会 HPI 5 回「
の基 と 」2007.2.21
 43. 協会 42 回 「RoHS 令の に伴
う 対 への取り み」2007.2.28
 44. 学会 JCOM-36- の 合化と 化に
する 2008.3.8-9
 45. 圧力 協会 HPI 「 7 回圧力容器
の国内外動向」2007.3.26

46. 器 会 合 器 (JIMA2007)
2007. 4. 4-6
47. 29 回国 委員会
29 回国 2007. 4. 16-18
48. 協会 43 回 基 会
学会 H19. 5. 22-25
49. MVA2007 実 委員会 に する IAPR 国
会 MVA2007 2007. 5. 16-18
50. 学会 19 基 IIW 制
:J-ANB 定 H19. 6. 7-8
51. 学会 の -事例 修付 2007. 6. 8
52. 圧力 協会 HPI 「 7 回圧力容器
の国内外動向」 大 催 2007. 6. 8
53. 圧力 協会 HPI 17 回圧力 備の
、 、 京 催
2007. 6. 14-15
54. 学会 6 回 の安全 信 に する
国内 営委員会 6 回 の安全 信
に する国内 (JCOSSAR2007) 2007. 6. 20-22
55. 協会 191 192 回 「21 世
を く 厚 」 2007. 6. 22, 26
56. 保全学会 回学 会 2007. 7. 2-3
57. 学会 42 回 X に する
2007. 7. 12-13
58. 実 委員会 ORGATECHNO2007 事務
2007 / 国 会
2007. 7. 18-20
59. 可 化 報学会 35 回可 化 報
2007. 7. 24-26
60. 実 力学会 実 力学会 2007 会
2007. 8. 6-8
61. 学会 力学 実 力学先 国 会
2007 (ATEM07) 2007. 9. 12-14
62. 壊 会/ 協会 壊 価 合
2007. 11. 6-9
- c)
1. 37 回原子力国内 「原子力 備
の 変化に する国内 (境にお
ける 変化 と予)」 2006. 6. 7
2. 圧 協会 品 保のための しい
制 に する 会 2006. 9. 29、他
3. 協会原子力 器の 、 、 、
に する 会 2006. 12. 5
4. 協会 「 における 事例と
その原因・対 」 会 2006. 12. 14
5. 協会 38 回原子力国内 「原子力
国に向けた 器信 の 割と今 の
原子力 委員会 50 周 」 2007. 2. 7
6. GSC
GSC-AON20072007. 3. 6-9
7. 原子力安全 協会安全 200- の
化と安全 -2007. 3. 9
8. 学会 「 の品 および
のための 」 会
2007. 3. 5-7
9. 協会 39 回原子力国内 原子力
における 力と 2007. 6. 18
10. 学会 回 の 修、 、
2007. 11. 2

d 共同企

1. 密 学会 像 専 委員会 ViEW2006
の実利 2006. 12. 7-8
2. 密 学会動 像処 実利 化 2007. 3. 8-9

e 協力

1. Bio Fuels World 協 委員会 Bio Fuels World
Conference EXPO &
2007. 7. 11-13

「 壊 」 55 4 号 56 3 号までの
を い、 に各 4,000 を 刊 した。
は、以下の を の上、実 した。

- (1) 企 と 企 の充実化を め、会員の 味が
てる 事 を した。
- 55 号 「 三回学 セミナー 安 ・安全の基 を
える 壊 」
- 55 号 「 の の 介」
- 55 号 「 をささえる その エネルギー
ライン 」
- 55 号 「 化 の 作 を る」
- 55 号 「2005 動報告 [事はお休み]」
- 55 号 「 力 備の と 壊 」
- 55 10 号 「 四回学 セミナー 事 に わる
安全の 」
- 55 11 号 「 位 及び 傷 による 壊 な
定 価 」
- 55 12 号 「 をささえる その 」
- 56 号 「医 の動向 その 」
- 56 号 「コンクリート への 壊 の 」
- 56 号 「 をささえる その 」
- (2) 原 を できる 会を増やすために、 原
の募 に努力した。具体 には、 大会及び各
分 会、 別 委員会の主催するシンポジウム で
の に対して、 の呼びかけを った。
として は、 14 件、 3 件となった。
- (3) 「 が国おける 傷の 史」に する を 55
9 号から 10 回シリーズでの を 始した。
- (4) J-Stage 利 による の Web 公 を
した。
- (5) の「Materials Transactions」での
NDT 号 刊の 具体 な作 を い、16 件の
原 を した。
- (6) の刷 を 図るため、 事 の 図 の
カラー化を に った。
- (7) 境に した 作りの 大 として、56 号
より、 全ページを 100 再 に切り えるた
めの 備が完了した。
- (8) 作 効 向上と の効 とを 図るた
め、インターネットの なる による、委員会 営
を 実 し、 作 の一 で、 による効 化
を 図ったと共に、委員会 催回 の削 を 実 した。
- (9) 原 に対する 作 に する を し、
則を した。
- (10) への、 場での を かした 事の を
する で「トピックス」を たなジャンルとし
て位 づけ、NDT からの の受入れ体制を
えた。

家を しなかった。

3)12th APCNDT に併 して われた RCA 国を対 とした IAEA/NDT workshop に参加し、 の 制 の について した。

境 及び 協会 の 係学 協会と 密に し、以下の 動を った。

4 回の 委員会を 催し、以下の事 について審 、 した。

- (1) 化 務 に係る 5 し対 となる JIS の の
- (2)5 し対 となる NDIS の
- (3)JIS 及び NDIS 原 作 の審
- (4)JIS 及び NDIS 原 の
- (5)各専 別委員会からの報告
- (6) 協会から依 のあった WES 原 について を った。

(1) の JIS 原 作 備 WG を ち上げ、JIS に向け て を った。

- ・ JIS Z 2300 壊
 - ・ JIS Z 2305 壊 の 及び
 - ・ JIS Z 2343-2 壊 傷 2 傷剤の
 - ・ JIS Z 2352 傷 の 定
 - ・ JIS Z 3060 の 傷
- JIS Z 2305 は、 内容が実務上の が大きいことから、 営委員会の下に 対 WG を ち上げ を った。

- (1) NDIS 3414 (H18. 7. 10)
- NDIS 3415 備及び の (H18. 7. 10)
- (2)審 中の原 NDIS 3425 力 定 (制定)
- NDIS 3426 位 による厚さ及びき 寸 さ 定 (制定)
- NDIS 4001 力 ひずみ 定 ()
- NDIS 4104 動ひずみ 定器の 及び ()

ISO/TC 135(壊)の国内審 対 委員会として、 委員会1回及び分 会1回を 催すると共に TC 44()、TC 17()及びTC 79/SC 11(チタン) の国内審 団 体と 密に し、以下の 動を った。

- (1)各 SC の 動に対する国内対 原 の審 を含む 国 原 への 及び 依 TC 135
 - ・ Final Draft International Standard(FDIS) 1件
 - ・ Drat International Standard(DIS) 5件
 - ・ New work Item Proposal(NWIP) 2件
 - ・ Systematic review of International Standard 3件
 - ・ その他 TS, TR の 3件
- TC 44 からの依
 - ・ Final Draft International Standard(FDIS) 5件

(2)ISO 国 会 への

ISO/TC 135/SC 7/WG7 及び WG8 会 に1名を 。 :2006. 6. 29(WG7), 2006. 6. 30(WG8) 場 :パリ フランス

(3)JISC への協力

国 化 動実 及び国 化 動基 化ア クシヨンプランのフォローアップ

18 における ISO/TC 135 「 壊 」 事国 務の は、下 の りである。

- (1) 1999 より TC 135 を務められた 先 が 2006 2 に 去されて以、 TC の は に なっていた。2007 1 に、 任の に前 事の 京 大学、任 6 が、また TC 135 の 事に土 ドキュメンツ、 は SC 6 事との兼任 が 任された。
- (2) フランスの Kozlowski をコンビーナとする WG 2 「 ガイドライン」において、CEN/TC 138 と共 同で作 を めてきた NDT シラバスのガイド ラインと、NDT の の 件を定めたガイ ドラインが、2006 7 に CEN と ISO に共 の 報告 Technical Report、CEN ISO/TR 25107 及 び CEN ISO/TR 25108 として された。
- (3) 2006 6 に、フランスのパリに 在するフラ ンス 協会 AFNOR で、SC 7/WG 7 「 実 に おける 及び 」、及び SC 7/ WG 8 「 」 の WG 会 が 催され、TC 135 事国を代 して 事 が出 した。アメリカの Turnbow がコンビーナを 務める WG 7 会 では、前回の審 内容を反 した修 原 *Non-destructive Testing Personnel - Performance Based Qualification* をたたき台に、 審 を った。今回の審 に基づいて修 を加え た 原 を 回の TC 135 会に 出し、 報告 として する予定である。またイギリスの Thompson がコンビーナを務める WG 8 会 では、SC 7 での で された委員会原 CD 22809 *Non-destructive testing -- Discontinuities in specimens for use in ualification examinations* を審 した。原 は 仕 Technical Specification として される みである。
- (4) 上 の WG 会 に き いて同じ会場で、CEN/TC 138 会 が 催された。ウイーン協定に則り、 事及び SC 7 の Murphy が TC 135 を代 して出 した。この会 は の全体会とは なり、2ヶ によ って された EN 473:2000 *Non-destructive testing - Qualification and certification of NDT personnel - General principles* の 原 に ついて、 に 付されたコメントの 審 を った。NDT の と にする ISO 9712 と EN 473 は、互いに み寄るような で を りしてきたが、今回の では一 して、CEN の 合を優先した になっている。そこで 2006 9 にドイツのベルリンで 催された国 壊 会 ICNDT の 会で TC 135 の 場から、Murphy と共同でこの問 を えたところ大きな反 があ った。この を TC 135 のメンバーに N で伝え るとともに、CEN/TC 138 に対しては TC 135 事国と SC 7 事国が 名で、 なくとも低 など の基 な 値を変 しないか、あるいは ISO 9712 に合わせるよう した。
- (5) 「アコースティック・エミッション Acoustic emission testing 」に する SC 9 が、SC 3 「

」からするでたにされた。事国にはオーストリアとブラジルが候補したが、
 会 ISO/TMB の定によりブラジル ABNT が任命された。

- (6) SC 3「 」のたな事国にドイツ DIN が
 まり、そのに Schlengermann が、また事に
 Hädrich が任された。上 SC 9 のに伴い、
 SC 3 の名が「 Ultrasonic
 testing 」に変された。
- (7) 16 回 TC 135 会並びにの SC 及び WG 会 は、
 4 回 アメリカ 壊 会 IV PANNDT の
 により、2007 10 にアルゼンチンのブエノスア
 イレスで催の予定である。
- (8) 2006 4 2007 3 にされた ISO
 ① ISO/TR 25107「 トレーニング のため
 のガイドライン」 2006-07-01
 ② ISO/TR 25108「 のトレーニング
 のためのガイドライン」 2006-07-01
 ③ ISO 3452-2「 傷 — 2
 傷剤の 」 2006-08-15
 ④ ISO 9712:2005/Cor 1:2006「 の 及び
 — 1」 2006-11-01

- (1) 国が ISO/TC135/SC6 からしたことに伴い、かつ
 て国がヘリウムれ の ISO としてし
 ていた国 ASTM の代としてより JIS Z
 2331 をすべく、壊 協会、協
 会と共に同 JIS のをい、ISO のグローバルディレ
 クトリにした。国の代としてドイツにも同
 な依がされており、今ドイツからされるで
 であろう EN との で ISO の元としていずれを
 するかを加国に問い、審、ISO の制定へと
 める。
- (2) 国 原子力委員会 (IAEA) から ISO としてさ
 れた射によるれについては、その
 内容に不備・完なが多く、SC6 事務から IAEA に
 対し完するようし入れ、在 IAEA で修中である。

委員会を回催し、以下の動をった。

- (1) 出に基づいた出の作審、
 をった。
- (2) JIS Z 2305 対としての出のしをった。
- (3) 原の子化のをった。
- (4) インターネット上で受を實した。
- (5) 出委員会則の一をした。
- (6) 会で一の売を實した。

以下の各参などのを増刷・した。また、
 委の仕入売もった。

- (1) 壊 シリーズ、その他名のあとの
 字は
 (a) 18 全
 1) 射 I 2006
 2) 射 II 2006
 3) 射 にする写及び 2006
 4) アコースティック・エミッション I 2006
 5) エックス作主任公問のと
 2007
 (b) 増刷

- 1) 壊 2004
 2) 壊 のための入 1998
 3) 壊 のための 1998
 4) レベル のための学及びシステ
 ムにする問 2006
 5) 射 I 1999
 6) 射 II 1999
 7) 射 III 2002
 8) 射 問 1999
 9) 射 実 1987
 10) 品の射 にする写 1991
 11) の射 にする写 1980
 12) 中子ラジオグラフィ写 1995
 13) 射の安全取 1996
 14) エックス作主任 テキスト 2004
 15) エックス作主任 公問のと
 2006
 16) 傷 1999
 17) 傷 II 2000
 18) 傷 III 2001
 19) 厚さ定 2001
 20) 傷 問 2002
 21) 傷 実参 2005
 22) 各品及びの傷 2004
 23) の傷 実 マニュアル 1999
 24) 傷入 による実 2000
 25) 傷 1998
 26) 傷 II 1998
 27) 傷 III 1998
 28) 傷 問 1999
 29) 傷 実参 2001
 30) の及び傷による
 の参写 1991
 31) 傷 I 2004
 32) 傷 II 2005
 33) 傷 III 1995
 34) 傷 問 2001
 35) 傷 実参 2001
 36) 傷 I 1995
 37) 傷 II 1995
 38) 傷 III 2003
 39) 傷 問 2002
 40) 傷 実参 2001
 41) ひずみ定 1998
 42) ひずみ定 II 1998
 43) ひずみ定 III 1998
 44) ひずみ定問 1998
 45) アコースティック・エミッション 1990
 46) 初めて学ぶ人のための壊入 1995
 47) イラストで学ぶ壊入 2002
 48) 壊 価学 1998
 49) 1994
 50) 外サーモグラフィによる備・
 壊 価ハンドブック 2004
 51) 壊学叢「壊の前」
 (CD ROM) 2002
 52) 壊 やさしい Vol. 1

- (2) 学 大会 ○
 1) ○ 季大会
 2) ○ 季大会
 3) 季大会

- 4) 季大会
- 5) 季大会
- 6) 季大会
- 7) 季大会
- 8) 季大会
- (3) 壊 協会 NDIS
- (4) 学協会 ハンドブック 壊 2000
- (5) JIS ハンドブック「壊」2006
- (6) JIS Z 2305:2001「壊」の及び
- (7) Recommended Practice No. SNT-TC-1A:2001
原とセット売
- (8) 「壊入」
- (9) 射の安全取

委員会を 回 催し、以下の 動を った。

- (1) 委員会品 マニュアルに基づき、
作・定・ を った。
- (2) 各 のトレーサビリティ と を
った。
- (3) 各 の を った。
- (4) インターネット上で の受 を実 した。
- (5) 傷 の寸 の を実
した。
- (6) 客のサービス向上について を った。

以下の ・ゲージの を った。

- (1) 射 写 きずの像の分 ゲージ
 - 1) 射 写 きずの像の分 ゲジ
きずの像の分 カド付
JIS Z 3104
 - 2) アルミニウム 射 写 きずの像の分
ゲジ
きずの像の分 カド付
JIS Z 3105
 - 3) 品 射 写 きずの像の分 ゲジ
、寸 定 、
JIS G 0581
- (2) 傷 (JIS Z 2345)
 - 1) 2) 3)
 - 4) 5)
- (3) 厚さ 対 (JIS Z 2355)
 - 1)
- (4) 傷 (JIS Z 2320, JIS
G 0565))
 - 1) 2)
 - 3)
- (5) 傷 アルミニウム 割れ
- (6) (JIS Z 2329)
- (7) 傷 及び 傷 の 察 件の
基 ゲージ(JIS Z 2340)
 - 1) 傷 2) 傷
 - 3) 光 傷 ・ 光 傷
- (1) 傷 (JIS Z 2345)
- (2) 厚さ 対 (JIS Z 2355)
- (3) 傷 (JIS Z 2320, JIS
G 0565)
- (4) (JIS Z 2329)

委員会を 5 回 催し、主に以下の事 について審 、
した。

- (1) 員 品 マニュアルの
 - (2) 則・基 ・ の制定及び
 - (3) 前 内 による 事 に対する 処
 - (4) BINDT PED 基 の制定
 - (5) ASNT-ACCP-PCP-1 取 件
 - (6) 問委員会の 具 に対する対
- また、委員会に以下のワーキンググループを し、 動
を った。
- (1) BINDT PED(圧力 器 令) 制 WG
JIS Z 2305 が PED NDT を取 可 とするため、
BINDT PED 基 に基づいて JIS Z 2305 と EN 473 と
の を埋めるサプリメントの内容を 定した。こ
の 、2007 2 に 委員会が実 したサプリメ
ント に 15名が受 した。
 - (2) ACCP-PCP WG
JIS Z 2305 が ASNT-ACCP を取 可 とするた
めの を った。2006 6 に ASNT によって JIS Z
2305 システムの審 地審 を含む が実 され、
この 、ACCP の 事 を 完するための具体 を
2007 3 に ASNTへ^p付した。
 - (3) JIS Z 2305 対 WG
ISO 9712:2005 と JIS Z 2305:2001 の を い、
原 作 備のための を 始した。JIS 制 に
係る を 出し、 委員会及び問 委員
会に を依 した。また、ISO 9712:2005 を し、そ
の内容を した。

2007 3 28 に 催し、 実 を報告するとと
もに 学協会 からご を した。

2007 2 22 に 催し、 実 及び 基
を した。

委員会を 3 回 催し、主に内 実 の しを
った。また、2007 2 14 に内 を実 した。

2006 8 19 に 催し、 に する の を
した。

委員会を 3 回 催し、主に以下の事 について した。

- (1) 問 の 分 処
- (2) 前 内 による 事 に対する 処
- (3) JIS Z 2305 にあたっての 事
- (4) ASNT-ACCP-PCP PEセクター 問

委員会を 2 回 催し、主に 壊 の の 定
を った。

- (1) JIS Z 2305による 壊 の 件

レベル1	7,706
レベル2	24,710
レベル3	3,330
合	35,746

(2006 12 30 在)

- (2) NDIS 0601の 定 の 件

	5,315
	23,904
	3,443
合	32,662

(2006 12 30 在)

委員会を5回催し、主に以下の事について審、した。

- (1)2006 員の定
- (2) スケジュール
- (3)一 催地区
- (4)前 内 による 事 に対する 処
- (5)レベル3クレジットシステム
- (6)BINDT PED サプリメント 実
実 2007 2 24
- (7)ASNT-ACCP-PCP 実地審 対
- (8) 問委員会での 事
- (9)JIS Z 2305 にあたっての 事
- (10)BINDT PED サプリメント

NDT レベル	受	合
	1	1
	5	3
	1	1
	1	1
	7	7

(11)2006 ・ の定 及び の実 と

定 実

一	3	25	26
二	5	9	6 26
一	9	23	24
二	11	7	12 26

2006 ・ 定
() NDIS0601 の

NDT レベル	別	受	合
		32	17
	再	1	1
		12	6
		104	28
	再	0	0
		15	10
		445	249
	再	5	5
		463	279
		591	311
	再	3	2
		385	245
		204	107
	再	0	0
		83	51
		240	144
	再	2	1
		96	58
		87	32
	再	0	0
		4	3
		68	20
	再	0	0
		3	3

NDT レベル	別	受	合
		94	25
	再	2	1
		81	26
		112	38
	再	2	0
		83	41
		15	4
	再	0	0
		14	8
		25	9
	再	0	0
		19	6
		13	2
	再	4	0
		7	6
		23	10
	再	5	0
		9	5
		177	94
	再	0	0
		9	9
		247	125
	再	0	0
		4	2
		234	97
	再	3	2
		209	164
		236	106
	再	4	2
		224	133
		8	2
	再	0	0
		7	4
		3	0
	再	1	1
		6	4
		29	13
	再	1	1
		6	2
		33	13
	再	4	2
		16	7
		11	9
	再	0	0
		5	3
		11	7
	再	0	0
		5	3
		11	7
		5	3
		1,349	651
		16	10
		900	561
		1,693	811
		21	8
	865	517	

NDT レベル	別	受	合
		381	92
	再	10	7
		386	281
		406	144
	再	18	10
		366	226
		1,494	386
	再	38	22
		853	468
		1,492	383
	再	42	24
		1,011	579
		1,000	178
	再	11	10
		621	369
		1,098	247
	再	16	10
		701	354
		108	28
	再	0	0
		0	0
		138	24
	再	0	0
		12	6
		1,452	486
	再	29	18
		1,125	791
		1,777	595
	再	37	29
		1,376	1,038
		433	184
	再	0	0
		0	0
		547	206
	再	0	0
		45	30
		205	93
	再	5	3
		232	132
		239	122
	再	9	5
		281	181
		64	23
	再	2	2
		95	62
		62	13
	再	2	2
		67	34
		5,137	1,470
		95	62
		3,312	2,103
		5,759	1,734
		124	80
		3,859	2,448

NDT レベル	別	受	合
レベル (全NDT 基 共)		362	136
		366	103

NDT レベル	別	受	合
		77	18
	再	0	0
		127	89
		91	20
	再	4	4
		131	94
		297	33
	再	6	4
		303	159
		298	38
	再	13	7
		354	184
		107	8
	再	0	0
		39	25
		114	4
	再	1	1
		29	22
		132	26
	再	1	1
		47	38
NDT レベル	別	受	合
		168	50
	再	0	0
		41	33
		43	7
	再	1	1
		23	18
		58	16
	再	1	1
		30	26
		9	1
	再	0	0
		17	10
		11	3
	再	0	0
		20	12
		665	93
		8	6
		556	339
		740	131
		19	13
		605	371

2006 受 ・ 合

別	受	合
	15,343	4,890
再	283	179
	10,097	6,339
合	25,723	11,408

2006 (NDIS 0601→ JIS Z 2305)

実	実 地区	NDT ・レベル	受	合
5 12	京 大		19	18
			36	35
			26	25
			0	0
			43	39
			0	0
			4	4
			1	1
レベル			129	122

実	実 地区	NDT ・ レベル	受 対	合
5 12	京 大	レベル (全NDT 共)	15	10

委員会を6回 催し、主に受 、合 、及び
内容 についての を、「 壊 」NDT
フラッシュに した。また、併せてホームページへの
を った。

NDIS 0602:2003「 壊 合 の 」に基
づき を い、 は6名の があった。な
お、 ()は135名の予定である。

委員会を3回 催し、主に以下の 動を った。

- (1) PED(圧力 器 令) NDT 制 の 上げ
2005 5 、 BINDT 国 NDT 協会 と な の
印を取交わした 、2006 7 の 合 に基づき PED
NDT 制 を ち上げた。また、 制 の のため
に BINDT PED 基 を 定した。なお、2007 2 24
実 の BINDT PED サプリメント に15名が受 し、
12名が合 した。
- (2) 国 壊 協会(ASNT) ACCP 取 の
2006 1 に ASNT-ACCP-PCP-1 の を った 、2006
6 に実 された ASNT の審 員による JIS Z 2305
システムに する審 亀 の センターの 地審 を
含む への対 を った。なお、 に する の 備
及び審 を受けるための 備は ACCP-PCP WG が対 した。

(3) IWIP IIW 国 セミナー及び 実
() 協会と JSNDI との に基づき、IIW 国
学会 の 3 の 例 による IWIP のセミナー及
び口 を 2007 2 に実 した。IWI-B (Basic) 1
名、IWI-S (Standard) 30 名、IWI-C (Comprehensive 25
名の受 があった。

委員会を8回 催し、PD として主に以下の事 に
ついて審 、 した。なお、PD の PD
報告 に基づき審 の 、合 17名の PD を
した。

- (1) PD に基づく 審
- (2) PD の 審
- (3) PD ・PD センターに対する 1回サーベ
イランス審
- (4) PD 問委員会の助 及び 具 への対
- (5) PD スキーム委員会の 上げ 2006 11

PD に 係する の委員で する委員会を2回
催し、以下の 事 に基づき 動を 始した。

- (1) PD システムの公 の
 - (2) PD スキームの 及び
- また、委員会に WG を し、今 のPD に する
な問い合わせに対する対 などについて した。

7. 表彰

(1) 協会賞、業績賞、論文賞、奨励賞、石井賞の表彰審査委員会を組織し、以下のとおり選考を行った。

協会賞 加藤光昭君

業績賞 坂 真澄君

論文賞 1. 時間一周波数解析を用いたTOFD法による欠陥高さ測定の高度化
黒川 悠君、水谷義弘君、井上裕嗣君

2. 磁気異方性センサを用いた曲管の非破壊応力診断 - 面内曲げ-
飯村正一君、境 禎明君

奨励賞 1. 配管自動超音波検査における電子的首振り走査技術の開発

篠原悟史君、永島良昭君、河野尚幸君

2. 深い表面き裂を測定可能なき裂深度計の開発
早川 学君、浜田晴一君、武尾文雄君、坂 真澄君

注) 下線は既受賞者のため授賞対象外

3. 高散乱材料中の閉口亀裂検出への非線形超音波利用の有効性についての有限要素法数値解析による検討

伊藤智啓君

4. 衝撃弾性波法を適用した新設コンクリート構造物での圧縮強度推定および内部欠陥探査に関する検討

岩野聡史君、森濱和正君、境 友昭君、極檀邦夫君

5. アレイセンサーを用いた逆散乱イメージングの再構成性能について

中畑和之君、廣瀬壮一君

6. 鉄道レール底端部のガイド波非破壊検査

林 高弘君、李 松君、村瀬守正君、阿部 司君

注) 下線は既受賞者のため授賞対象外

石井賞 横野泰和君

(2) 新進賞授与委員会を組織し、日本非破壊検査協会 新進賞の選考を行い、以下のとおり新進賞を授与した。

新進賞

平成 18 年度春季講演大会 (平成 18. 5. 24 授賞)

1. 電磁超音波共鳴法による鋼板の減肉測定手法の開発と数値計算を用いた検出原理の検討

三谷欣也君

2. 配管自動超音波検査における電子的首振り走査技術の開発

篠原悟史君

3. 直流電位差イメージング手法によるき裂評価

鈴木卓磨君

4. マイクロ波加熱と赤外線サーモグラフィを用いた透過法によるコンクリート構造物の非破壊検査方法

小泉裕樹君

5. 圧縮せん断法による人工骨 (Ti/HAp) の開発

岡田 亮君

平成 18 年度秋季講演大会 (平成 18. 10. 27 授賞)

1. 光干渉法と超音波可視化法を併用した手法によるき裂の評価

関野晃一君

2. 実験動物用 in-vivo 3DマイクロCTの開発

山田鮎太君

3. セミマイクロフォーカスCTの開発

大門弘典君

第 38 回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム

(平成 19. 1. 12 授賞)

1. 実験変位場からき裂先端位置を自動決定する実験-数値 Hybrid 法の開発

藤川正毅君

2. 光学的手法による足関節の力学特性に関する研究

梶原平三君

3. ピエゾケーブルを用いたボルトの軸力検出 (引張およびせん断負荷が同時作用した場合)

田村信一君

第 10 回表面探傷シンポジウム-人工物の経年劣化事象にかかわる表面センシングと評価技術-

(平成 19. 1. 26 授賞)

1. 回転渦電流プローブの設計とき裂検出特性

水上祥次君

第 14 回超音波による非破壊評価シンポジウム

(平成 18. 1. 31 授賞)

1. レーザスポレーションと超音波を用いた接合界面強度の評価

内山友成君

2. 繊維強化複合材料における異方性超音波伝搬特性の評価

田口剛大君

3. 超音波による厚板内部の温度分布計測に関する検討

高橋 学君

第 9 回新素材及びその製品の非破壊評価シンポジウム

(平成 19. 2. 23 授賞)

1. ファイバ波ブラッグ格子センサーを使った多点同時超音波センシングシステム開発

李 政律君

8. 選挙管理委員会

平成 19・20 年度 理事の選挙を実施した。

9. 名誉会員の推戴

日本非破壊検査協会名誉会員の推薦を行った。

1. 遠藤睦雄君

2. 岸上守孝君

3. 吉田 亨君